

加藤浩平 教授 履歴・業績

加藤浩平教授 履歴・業績

【履 歴】

- 昭和47年3月 長野県伊那北高等学校卒業
47年4月 東京都立大学経済学部入学
51年3月 同卒業
51年4月 東京都立大学大学院社会科学研究科経済政策専攻修士課程入学
53年3月 同修了
53年4月 東京都立大学大学院社会科学研究科経済政策専攻博士課程進学
56年8月 ドイツ学術交流会（DAAD）給費留学生として渡独
56年10月 ドイツ連邦共和国ハイデルベルク大学入学
58年12月 帰国（東京都立大学大学院社会科学研究科経済政策専攻博士課程へ復学）
59年10月 外務省専門調査員として在独（ボン）日本国大使館に勤務
61年3月 東京都立大学大学院社会科学研究科経済政策専攻博士課程単位取得退学
62年1月 帰国
62年4月 玉川大学文学部非常勤講師（経済学，経済外書講読を担当）
63年4月 法政大学経営学部非常勤講師（ヨーロッパ経済論を担当）
63年10月 文教大学短期大学部非常勤講師（経済学担当）
同 和洋女子大学大学部生活学科非常勤講師（家政学担当）
平成2年4月 専修大学経済学部助教授（ヨーロッパ経済論を担当）
9年2月 長期在外研究（ドイツ連邦共和国，キール世界経済研究所，ミュンヘンifo研究所）
12年4月 専修大学経済学部教授
24年9月 中期在外研究（ドイツ連邦共和国，ハレ経済研究所）

【業 績】

【著書：共著】

- 大西建夫・U. リンス編『ドイツの統合—分断国家から普通の国へ—』早稲田大学出版部，1999年
齋藤哲・八林秀一・鎗田英三編『20世紀ドイツの光と影—歴史から見た経済と社会—』葦書房，2005年
雨宮昭彦・ヨッヘン・シュトレープ編『管理された市場経済の生成—介入的自由主義の比較経済史—』日本経済評論社，2009年
鈴木直次・野口旭編『変貌する現代国際経済』専修大学出版局，2012年

【論文】

- 「ドイツ分割と東西ドイツの経済関係」『専修経済学論集』第27巻第1号，1992年
「ドイツ経済と外国貿易—A. O. ハーシュマンの分析を中心に—」『経済と経済学』第73号，1993年

「西ドイツの戦後経済復興—旧東ドイツの経済再建との比較の視点から—」『専修経済学論集』第28巻第2号，1993年

「ヨーロッパの失業問題」『社会科学年報』第28号，1994年

「旧東ドイツの経済再建—H. W. ジンの所説を中心に—」『専修経済学論集』第29巻第1号，1994年

「欧州統合と独仏の経済関係—ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の成立—」『社会科学年報』第29号，1995年3月

「ドイツ経済の長期的課題と『産業立地』」『専修経済学論集』第30巻第2号，1995年

「旧東ドイツ経済再建の障害—W. ハンケルの所説をめぐって—」『専修経済学論集』第31巻第1号，1996年

「東ドイツ崩壊の原因についての一考察—戦後ドイツにおける『難民』問題と関わらせて—」『社会科学年報』第31号，1997年

「旧東ドイツ経済と『メツォジョルノ問題』—地域経済格差とその収斂—」『専修経済学論集』第33巻第1号，1998年

「ドイツにおける「改革の渋滞」と「社会国家」の危機—A. バリングの論点をめぐって—」『専修経済学論集』第33巻第2号，1998年

「旧東ドイツにおける民営化と「信託公社」」『社会科学年報』第33号，1999年

「東部ドイツにおけるエネルギー産業の再編成—民営化をめぐる諸問題—」『専修経済学論集』第34巻第2号，1999年

「戦後東ドイツの賠償負担問題」『社会科学年報』第36号，2002年

「統一後10年の旧東ドイツ」『社会科学年報』第37号，2003年

「ドイツにおける失業問題」『専修経済学論集』第38巻第3号，2004年

「ドイツ電力産業における競争政策の展開—電力市場の自由化と規制—」『社会科学年報』第42号，2008年

【研究ノート】

「逆境の日本経済，どこに問題があるのか，ドイツ経済との比較（ハレ大学講演記録）」『専修経済学論集』第47巻第3号，2013年

「ゲーリッツ・スコルジェレッツとEU東方拡大」『専修大学社会科学研究所 月報』No. 500，2005年2月

「ユーロ圏の危機対応と通貨増発—H. -W. Sinn の著作を参考にして—」『専修経済学論集』第57巻第3号，2023年

【書評】

山田誠著『現代西ドイツの地域政策研究—西ドイツ国民経済における地域政策と地方財政』（法律文化社）『地域開発』306号，1990年

住谷一彦他著『ドイツ統一と東欧変革』『神奈川大学評論』第14号，1993年

渡辺尚他編著『孤立と統合—日独戦後史の分岐点』（京都大学学術出版会）『歴史と経済』（政治経済学・経済史学会）第198号，2008年

「石井聡著『もう一つの経済システム—東ドイツ計画経済下の企業と労働者—』をめぐって」『専修経済学論集』第45巻第3号，2011年

工藤章著『日独経済関係史序説』（桜井書店）『政治経済学・経済史学会』第218号，2013年

「白川欽哉著『東ドイツ工業管理史論』（北海道大学出版会，2017年）を読んで」『専修経済学論集』第52巻第3号，2018年

藤澤利治・工藤章編著『ドイツ』 済—EU 経済の基軸—』（有斐閣）『歴史と経済』（政治経済学・経済史学会）
第252号，2021年

【翻訳】

ヴォルフガング・シュルプター「市民的生活態度の成立」，田中豊治・柳沢治・小林純・松野尾裕編『近代世界の変容—ヴェーバー・ドイツ・日本』リプロポート，1991年
エッカルト・シュレンマー「ドイツ統一における統合と断絶—1989年から1993年—」諸田実他『ドイツ経済の歴史的空間—関税同盟・ライヒ・プント—』昭和堂，1994年